



記者発表資料

平成20年4月9日

大阪経済記者クラブ会員各位

大阪商工会議所

ミナミにおける放置自転車対策の社会実験結果について

【問合せ先】 地域振興部（中野・堤）

☎06-6944-6323 090-9111-4379

○ミナミ地区の最大の都市問題の一つである放置自転車は、ピーク時に18,000台に上るとも言われ、その解決が急がれている。他地域では、駅前の通勤・通学が放置自転車の発生要因となるケースが多いが、都心部の中心繁華街であるミナミでは、放置自転車の発生要因が買い物、娯楽、商用、通勤など様々で、その詳しい状況が把握できていない。そのため、有効な解決策が見出せず、放置自転車の状況は改善されていない。

○そこで、大阪商工会議所は、ミナミ地区の商店街組織をはじめ関係者の協力を得て、平成19年10月よりミナミにおける自転車利用の現状を調査するとともに、2か所のモデル地区において、就業者を対象に自転車利用の実態を把握する社会実験を1週間実施した。

○調査の結果、下記の問題点が明らかになった。

- ①放置時間は3時間未満の短時間駐輪が多い。比較的長時間駐輪すると考えられる就業者の自転車よりも、買い物、娯楽等の用途の放置自転車が多いと推測される。
- ②18～22時の夜間にかけて放置自転車が多い。特に道頓堀地区では、深夜にかけても就業者、来街者ともに放置自転車が多い。
- ③近隣（自転車で10分以内）からの自転車通勤・利用者が多い。
- ④日常的に自転車を利用する就業者についても、所定の駐輪場への誘導は困難であった。駐輪場が目的地から遠いという理由のほか、深夜まで営業する業態の店舗も多いため、駐輪場の閉鎖時刻が影響を及ぼしていると思われる。

- <添付資料> ○ミナミにおける放置自転車社会実験実施概要（別添①）
○ミナミにおける自転車駐輪実態調査報告（別添②）

※上記添付資料はPDFファイルでリンクされています。

以上